

| 平成27年度第2回横浜市子ども・子育て会議子育て部会 会議録   |   |
|--|---|
| 日 時  | 平成28年1月21日（木）10時00分～12時00分  |
| 開催場所   | 松村ビル本館 マツ・ムラホール   |
| 出席者  | 吉田眞理委員、太田恵蔵委員、後藤美砂子委員、土山由己委員、蓑田雅委員、森祐美子委員、柳井健一委員、山田美智子委員、渡辺克美委員、大山牧子委員  |
| 欠席者  | 高田治委員   |
| 開催形態   | 公開（傍聴者1人）   |
| 議 題  | <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>(1) 子育て部会の所掌事業の追加について</p> <p>(2) 横浜市が取り組む青少年施策</p> <p>(3) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p> |
| <p>&lt;議題&gt;</p> <p>(1) 子育て部会の所掌事業の追加について<br/>事務局より資料に沿って説明</p> <p>(2) 横浜市が取り組む青少年施策<br/>事務局より資料に沿って説明</p> <p>○大山委員</p> <p>横浜市がこのように多くの青少年に関する事業を行っていることを知りませんでした。「妊娠SOS」のように、広く分かりやすい「入り口」をつくっていただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>また、青少年施策を実施してもうすぐ10年となりますが、横浜市内のひきこもり群の推計数である8,000人のうちの何人がアクセスして、どういう結果が出たのかを教えてくださいたいと思います。</p> <p>○事務局</p> <p>10年分となりますと手元に集計数はございませんが、例えば平成26年度ですと、若者サポートステーションあるいは自立塾、相談センター、地域ユースプラザにつながった方が約2,000人ちょっといらっしゃる状況です。それに対して、その方なりに自立に改善が見られた人数が864人ということになっています。10年分あるいは経年で見ていったときの変化については分析して、また機会がございましたらご紹介させていただきたいと思います。</p> <p>「入り口」についてですが、青少年相談センター、地域ユースプラザのどちらかということで考えていただいてもよろしいかと思います。よく分からないということであれば、青少年相談センターが、電話で総合相談を受けておりますので、まずお電話いただければ、適切なところをご紹介、あるいは、おつなぎすることができます。</p> <p>○吉田部会長</p> <p>大山委員のご発言は、「もっと分かりやすい『入り口』があったら」ということかと思いますが。例えば虐待の通報で「いちはやく（189）」ができたように、簡単な番号でアクセスできる「入り口」をつくっていただきたいということについてはいかがですか。</p> <p>○事務局</p> |   |

虐待対応のように非常に分かりやすい形の窓口はまだ用意していませんので、まずは青少年相談センターへ総合相談という形でお電話をいただければと思います。

○大山委員

この事業と学校とはどう連携しているのでしょうか。学校の先生はすべて把握しているのでしょうか。

○渡辺委員

ユースプラザに来られる方のゴールも、サポートステーションに来られる方のゴールも、就労や就学、学校に復学することだけではないなど、とても多様化しています。

私たちは高校にも伺っていますが、ユースプラザの存在を知らない先生方はかなりいらっしゃり、せつかくの取り組みがまだまだ周知されていないことは課題です。

○大山委員

ゴールが多様化しているというのは当然だと思います。本人が、「自分はそんなに悪くないのだ」と思う「自己効力感」が1つのゴールだと思うのですが、そういうものを評価の1つになるような手立てをしていただくといいと思います。

○事務局

大山委員のおっしゃるとおりで、一番大事にしておりますのは一人ひとりの状況をしっかりと個別に対応していくということです。

○柳井委員

「入り口」の話がございましたが、1つの電話番号があり、そこにアクセスしてくるというのは、様々な状況がある中で、なかなか難しいのではないかと思います。この問題は、いろいろな「入り口」があって、その「入り口」間の連携が大事で、行政のほうでもイニシアチブをとりながら、横の連携をしっかりと取っていくことが大事なのではないかと思います。

○山田委員

一万人子育てフォーラムでも、寄り添い型学習支援のことを調べたり、事業者さんのお話を伺ったりしています。事業者さん同士の連携をまずつくり、ほかの事業に関しても横のつながりをつくってほしいと思います。

それから、西区の青少年交流センターが閉館になるという話を聞いているので、移転先などを教えていただきたいと思います。

また、独自に若者の自立支援を頑張っている小さなNPOはたくさんあります。ここには載っていない「民の活動」もたくさんあると思いますので、ぜひそのようなところも丁寧に拾っていただけたらと思いました。

○事務局

西区の青少年交流センターについては今年の3月閉館の予定です。単に閉館するのではなく、代替策として、桜木町駅の前「びおシティ」という建物で同趣旨の事業を行っていく予定です。

○事務局

ご指摘のとおり市内にはNPO法人に限らず親の会のような団体や、いろいろな団体がたくさんあり、それぞれいろいろな活動をされています。地域ユースプラザごとに地域連絡会を年5回ずつ、4カ所でいただいています。行政区4区か5区ぐらいの範囲ですので、その中のそういった団体やいろいろな方々にお集

まりいただいて、そのエリアの中での横のつながり、ネットワークづくりは地域ユースプラザでたくさん行っていただいています。また、青少年相談センターでは、若者相談スキルアップ研修というものを年間通じて行っておりまして、公的機関も含めて皆様方にご案内差し上げてご参加いただいています。中には、私どもの職員が出向いて研修のお手伝いをさせていただいているという例もございます。

#### ○土山委員

困難を抱える若者支援がいろいろあることは、本当に心強く大切なことだと思うのですが、一方で、どうしてこれだけ、ひきこもりになったのだろうかという分析も大切だと思うのです。ひきこもりの中で、「発達障害ではないか」ということが分かっていたら教えていただきたいのと、青少年相談センターから医療につなげたケースがありましたら教えていただきたいと思います。

#### ○事務局

最初のご質問ですが、ひきこもり状態の方々につきましては、国でガイドラインを出しておりまして、そのガイドラインをつくるに当たっての調査がございます。その結果からいたしますと、発達障害を背景に持つひきこもりの方は全体の3割程度とご理解いただければと思います。実際、青少年相談センターでも、支援している方々の背景要因を分析していきますと、発達障害ないしは、その傾向が疑われる方々が、やはり30%程度となっておりますので、国の調査とほぼ一致する状況です。

もう一つ医療の問題ですが、ひきこもり支援の中では医療との関係は切っても切り離せない関係ですので、支援の中でしっかりとアセスメントしていったら、医療が必要な方については、医療に丁寧におつなぎするということにつきましては、私ども青少年相談センターでも地域ユースプラザでも日常的に取り組んでいるところです。

#### ○柳井委員

ご本人の課題ではなく、生活保護とか貧困ということがその背景にあるがゆえに、ひきこもりになってしまうケースは結構あるのではないかなと想定しています。私たちが想像する以上に今子どもたちは貧困ということを抱えています。そういうこともぜひ大きな視点として持っていただければと思います。

#### ○森委員

大山委員から「自己効力感を評価に」という話がありましたが、大変深く共感しました。不登校を問題としてみようこと自体が、本人を苦しめるという話も実際に当事者の人たちからも聞くことがありまして、そういったことが評価の1つとして入るといいなとも思いました。

また、実際に就労した後、就労し続けることはとても大変なことだと想像できます。就労先のところで定着していくような受け入れ体制の充実や、実際に社会で支えていけるような施策があるのかを伺いたいと思います。

#### ○事務局

就労支援については、サポートステーションが大きく関わっている訳ですが、その前段階の就労体験のような部分では、多数の企業、事業所から、若者がスムーズに就労に移行できるように、ご支援やご協力をいただいているところです。ただ、就労先での定着ですが、そこは国レベルでも問題視しておりまして、サポートステーションでは就労の後のアフターフォローも行っております。この取り組みは本年度からスタートしており

まして、ご指摘の内容をどのようにクリアしていくのかは、まさに大きな課題です。

○太田副部長

意識的に悩んでいる方がアクセスしやすい方法、場所を、もっと学校・教育委員会などを使っていただいて、医師会には学校医部会とかもありますので、もう少しアナウンスをしていただいてもいいと思います。

また、事業の継続的な評価を行って、ステップアップしていきたいと思いますので、事業の検証を行っていただきたいと思います。

○事務局

本日はさまざまなご意見とご質問ありがとうございます。私どものほうも青少年部として対応しております健全育成部門と青少年の自立支援部門、これらを一体的に更に進めていきたいと思っています。今回、子育て部会で青少年施策についてご審議いただくという運びになりましたので、より一層、各部門の連携といったことをご相談させていただき、また、専門的なご意見もいただいて、取り組みについて更に内容を充実させていただけたらと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○蓑田委員

太田副部長がおっしゃったように、経年のデータ等々を教えていただきたいなど、また、教育の分野、学校で青少年の活動もやっているというのはぜひアナウンスしていただきたいなと思いました。

○柳井委員

皆さん方から学校現場が「入り口」というようなありがたい言葉をいただいて、学校で働く者にとっては大変うれしい限りなのですが、学校は1つのアナウンスのツールとしてはもちろん必要なことだとは思いますが、オールマイティーではないという認識はぜひ持っていただきたいなと思います。

○渡辺委員

私自身はよこはま南部ユースプラザで若者支援の分野にずっと携わってきましたので、本当に連携がどんどん進んできているという実感があります。学校との連携の部分も徐々に区とか学校単位では進んできています。いろいろなところの連携で、横浜市が行っている若者支援の施策がもっともっと皆さんに伝わるような場があると良いと思います。

(3) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

事務局より資料に沿って説明

○森委員

PDCAについて、ぜひこの横浜では、形だけのアンケートとか、形骸化したものにはしたくないと強く思っております。「利用者の意見等も踏まえて有効性を評価する」ということも書いてありましたが、利用者の方たちが評価に参画しやすい工夫が、より求められるのだろうと感じます。特にPDCAの中の「A」の部分なのですが、その「A」(アクション)につなげることが重要です。子育て当事者が評価のプロセスに参画

することで、「自分に何ができるか」も考えるきっかけとしていくというのも大事だと思っています。

また、評価指標についてですが、「こういった視点も必要なのではないか」ということがPDCAのプロセスの中で出てきたときに、新しい評価を次に向けて加えることも考えてもいいのではないかと思います。

○山田委員

森委員と同じく、評価指標をぜひ柔軟なものも考えてほしいと思っています。この計画で大切にしている「切れ目のない支援」については、事業別では評価できない部分があり、また、10年、15年ぐらいの長いスパンで見えていく評価方法がないものかと思っています。指標に入れるのは難しいと思いますが、事業者や子育て当事者と一緒に評価できるようなものを、今から準備していく必要があるのではないかと思います。

|      |  |                            |
|------|--|----------------------------|
| 資料   | 資料1  | 横浜市子ども・子育て会議子育て部会 委員名簿     |
|      | 資料2  | 横浜市子ども・子育て会議子育て部会 事務局名簿    |
|      | 資料3  | 横浜市子ども・子育て会議条例             |
|      | 資料4  | 横浜市子ども・子育て会議運営要綱           |
|      | 資料5  | 子育て部会の所掌事業の追加について          |
|      | 資料6  | 横浜市が取り組む青少年施策              |
|      | 資料7  | 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について |
|      | 資料8  | 点検・評価様式                    |
|      | 資料9  | 点検・評価に向けた子育て部会所掌事業の視察について  |
| 特記事項 | 次回の子育て部会の開催は6月から7月頃を予定。<br>本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。 |                            |